

<受入研修>

令和元年度インドネシア向け省エネ研修を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2019年9月30日から10月4日の4日間インドネシア政府関係者および産業界の代表者を招聘し、日本-インドネシア間の省エネ協力事業に係る研修を実施しました。

本年7月、インドネシアのボゴールでエネルギー鉱物資源省及び工業省と合意した省エネ協力事業に関し、以下のプログラムの基本計画とロードマップを策定しました。

- (1) 省エネ推進のためのベンチマークアプローチの確立
- (2) エネルギー管理システム（EnMS）構築のためのガイダンス策定と EnMS および省エネ優秀事例の普及システムの確立

参加者全員写真



日本企業との意見交換



省エネ優秀工場の見学



今年度から開始する省エネ協力事業（エネルギー多消費産業の省エネ推進のためのシステムと案の樹立）の基本計画を作成するため、インドネシア政府関係者および産業界の代表者を招聘し、実施するプログラムのロードマップと実施体制を決定しました。

ECCJからは、日本の省エネ法下での省エネ指針とベンチマークの運用およびベンチマークアプローチの概念と具体的内容の案や、ISO50001に基づく EnMS 構築のためのガイドの要点と EnMS を機能するためのツール類の情報を提供し、2つのプログラムを具体的に構想するためのワークショップを実施しました。併せて、2つのプログラムの成果が連携してインドネシア産業界の省エネが推進されるようプログラムの実施体制を議論しました。

- (1) 2つのプログラムを一貫して実施するためのワーキンググループを組織することでエネルギー鉱物資源省と工業省が協力して本事業を実施する体制を構築することとしました。
- (2) 省エネ推進のためのベンチマークアプローチの確立に関しては、エネルギー多消費産業（8業種：セメント、鉄鋼、肥料、窯業、製紙、化学、繊維、食品）の省エネ指標を定義し、実状を把握しながら可能な改善目標を明確にして省エネ可能性を推測すること、及び省エネ目標を達成するための有効な対策や技術を具体化することが合意されました。
- (3) EnMS 構築のためのガイダンス策定と EnMS 及び省エネ優秀事例の普及システムの確立に関しては、ISO 50001 に基づくエネルギー管理要素とそれらの運用方法が具体的に理解できる内容を盛り込んだ EnMS 構築ガイドの作成することが合意されました。また、EnMS 構築ガイドの効果的な利用方案として、工業省が主導して企業に活用を促すことや、企業（民間）主導として活用すること、エネルギー鉱物資源省と工業省が連携して討論会等を開催すること等の普及方法が議論されました。また、日本における企業の省エネ法に基づく取組みの理解を深め、エネルギー多消費産業の省エネに有効な技術を紹介するために、セメント工場の見学と世界省エネルギー等ビジネス推進協議会の会員企業との意見交換を行いました。